たたら

第　12　号
島根学習センター内
島根同窓会
発行者　竹下靖彦
2019 年 1 月発行
http://oushimaned.main.jp
E-mail info@oushi maned.main.jp

新年おめでとうございます
本年も何卒よろしく
お願い申し上げます
役員一同

（写真・文：知野見孝信氏提供）

五十猛（いそたけ）のグロ

大浦の港に、高さ２０メートルの笹竹が日本海から吹きすさぶ寒風に、倒れんばかりに揺れて佇つ。大田市五十猛町大浦の小正月行事「五十猛のグロ」は、神を迎え送るという一連の儀礼や禁忌などが、民族的要素をよく伝えていると、国の重要無形民俗文化財に指定されており、そしてそれが今年も一月の十一日から十五日の間行われる。笹竹の下には、ゴザと青笹で覆われた、円錐形に造られた１０畳ほどの「仮屋（かりや）」が造られ、中には歳徳神が祀られ、小正月を祝う。仮屋の中央に在る囲炉裏のそばでは餅やスルメを焼き、その匂いがこもるなかで、大人も子供も今年一年の無病息災・豊漁・学業成就を祈念する。新しい年があけました。

皆様あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新しい新年への思い

会 長　竹下靖彦

会員の皆さま新年おめでとうございます。旧年中も大変お世話になり有り難うございました。

昨年の第６回通常総会開催にはお世話になりました。改めて御礼申し上げます。いよいよ設立 10 年目を目指し、新たな活動域へと荒波を受けながら出発しました。

顧みますと、一般大学とは異なり個人学習を主とし、各種サークルも少なく、学生同士の交わりの機会も少なく、従って連帯感も乏しい中での卒業生を対象とする同窓会の存在価値をどのように浸透させるのか、その為の具体的な活動とは何かについて悩みながら、決して地理的条件が良くない地方において、同窓会として発展するのか等など、議論を行いながら船出をしたことを回顧して新年を迎えるたびに自問自答しながら、新年への思いを巡らしています。

社会貢献活動にも重点を置いて

設立５年を過ぎ、６年目を迎えるに際し最大の課題は、会員の再登録と会費の納入を 100％確立することであり、５年を終えた会員 64 人中 45 人(70％)の方に再登録頂きました。再登録が少ないことは同窓会に対する評価が期待通りではないことの現れであり、どのような結果となるのか心配していたのですが、70％の方が評価して下さったことに役員一同確信を深めることができました。

本年度は学習センター支援のみならず、社会貢献への取り組みとして、10 月 13 日(土)に初めて島根県から助成事業団体として認定されて委託を受け「消費者市民社会の構築に向けて！」～地産地消と健康寿命を考えるつどい～を成功裏に開催できました。

本年もよろしくお願いします。

「放送大学学歌」の斉唱を

島根学習センター所長
佐々 有生

新年明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えることは、また年度のまとめの時期にもなってきます。島根学習センターは、年が明けると、1 月の単位認定試験から 3 月下旬の「学位記授与式」・「入学者の集い」まで、さらに慌ただしく日々が過ぎていきます。

そうした年度末の大切な節目に向けて、２学期、本学習センター全職員で密かに取り組んでいることがあります。それは「学位記授与式」における「放送大学学歌」の斉唱です。職員の一言がきっかけで、事務長の強力なリーダーシップにより、毎朝のミーティング時に全職員で練習しています。悲しいかな、指導できるもの誰一人いない中での練習です。各人の出勤日は異なっており、全職員が揃う日もわずかしかありません。未だに少しは歌えるようになってきているのかさえ分からずなんとか練習は続いています。

島根は合唱の文化が根付いている

実は、一昨年度の島根学習センター開設 20 周年記念を迎える頃から本学習センターでコーラスの同好会ができないものかと思っていました。島根は、音楽への関心が高く、合唱の文化が根付いているとよく感じるからです。合唱のよさ・すばらしさを教えられたのが松江の地です。

そうは言うものの、現状は、本当に 2 学期学位記授与式で「放送大学学歌」を斉唱できるのか、それさえおぼつかない状況にあります。とても心に響く歌声にはなりませんが、当日、なんとか温かい気持ちで歌いたいとは思っています。

ここはひとつ、同窓会の皆さんも一緒に歌声を響かせていただくと心強く思いますが、いかがなものでしょうか。

平成30年度 第1学期
学位記授与式が開催されました

平成３０年度第１学期学位記授与式が、９月３０日(日)午前１１時から島根学習センター３階「第１講義室」で開催されました。第１学期は教養学部１６人(初めてが６人)が卒業でしたが、当日は４人の方が出席された。

佐々学習センター所長より学位記が卒業生修了生お一人おひとりに手渡され、そのご努力とご偉業に会場の出席者とともに大いに祝福しました。

次に佐々学習センター所長から式辞があり、多くの困難を乗り越えて本日を迎えられた卒業生のみなさんおめでとうございますと祝辞が述べられました。今年度1学期を振り返って特に印象深く思うのは自らの強い意志で学ばれている学生Ｙさんの姿です。Ｙさんは重度の肢体不自由のため入院されており、医療措置を受けながら学ばれている学生さんです。私が当センターに赴任した当初より通信指導には合格しながらも、単位認定試験当日はいつも欠席されていました。昨年度は、２学期にセンター職員が病院に出向いて病室で受験できるよう調整しましたが、体調の問題で受験できませんでした。今年度も同様に試験の準備を進め見事に合格されました。実に６年ぶりの受験でした。今年度、受験の準備段階で初めてＹさんを訪問したときに感じたことは、Ｙさんにとって学ぶことは生きる証、よりよく生きる力となっているのではと思いました。

ところで、今月、俳優の樹木希林さんが亡くなられましたが。樹木希林さんの出演されたカンヌ国際映画祭出品映画の「あん」での樹木希林さん演じる老女の最後の言葉「私たちはこの世を見るために、聞くために生まれてきた、だから何かになれなくても、私たちは生きる意味がある」をお祝いの言葉とさせていただきます。

続いて来賓として足立前学習センター所長と竹下同窓会会長が祝辞を述べられました。足立

先生は自身の研究から”尾崎放哉と杉本玄々子”との関係を紹介され、卒業後にも継続して学ぶことの重要性を話されました

続いて、竹下会長は、5回目の卒業生に名誉学生へ挑戦されることへのエールや同窓会が島根県から任意団体として認められ委託事業が可能となったことなどを紹介し、卒業生の皆様には学ばれた見識と行動する勇気を地域職場に活かして社会の中で貢献されることを期待する。また同時に是非とも同窓会へ参加してほしいと呼びかけられました。

在学生の送辞と卒業生の答辞では

続いて在学生を代表して生活と福祉コースの青山香代子さんが送辞を述べられた。先輩方の存在がやる気を大きく後押ししてくれたこと、計画をたて自分なりに見通しをもって学ぶことの大切さを学んだことなど感謝の言葉を述べられた。次に卒業生を代表して生活と福祉コースの大賀美弘子さんが答辞を述べられた。２０１３年に再入学をし、仕事と家庭とハードな環境のなか家族の支えに感謝したことや、面接授業で楽しく学んだこと、授業以外でも他の学生さんと食事を一緒にして和やかに過ごせたことな

ど、放送大学では単位取得以外でも多くの人との出会いがあり、知ることへの探求心が強まり、今後も継続して勉強の必要性を感じたとの言葉がありました。続いて客員教員から卒業生修了生に花束が贈呈され会場を退場されるとき大きな拍手でご卒業、修了を讃えました。

（石川直樹　記）

平成30年度 第1学期
卒業を祝う会を開催

平成30年度第1学期卒業を祝う会は会場を4階第2講義室に移し、同窓会主催で食事会を兼ね12時から開催しました。今回は卒業生・修了生からは3名が参加されました。最初に竹下会長より挨拶があり、その後に卒業・修了された方のそれぞれの思いを語っていただきました。

生活と福祉コースを卒業された方は「次は人間と文化コースにチャレンジしたい」と次への意欲を話されました。社会と産業コースを卒業された方は「インターネットを活用した勉強法について」の話をされ、また心理と福祉コースを卒業された方は「新システムについての感想」を話していただきました。いつもに比べ少人数の会となりましたが、皆さん時間のある限り思いを話していただきました。

最後に久保、野本、石井の各客員教員からお祝いの挨拶をいただき、和やかに歓談して祝う会を終了しました。（石川直樹　記）

学位記授与式を迎えた方より

卒業を迎えた心境

松江市　竹内　徹

この度「心理と教育コース」を卒業しました。

私は旧学習カリキュラムに属していたので、所属コース内外科目毎の卒業認定要件が効率的に利用できる制度を幸いにして受けることができました。

しかしこの卒業を経た再入学からは、新学習カリキュラムに属するため、履修済所属コース科目が卒業認定要件の算定に含まれないことから、改めてゼロからスタートする気持です。

私は得意分野と言うよりも自身が持てる内容、単位認定試験の日程順、科目群履修認定制度の対象か否かを考慮に入れた履修を行うため、多少回り道をしてきたように思います。更に生活環境から受験日の制約が大きく、選択する余地が少なくなりつつもなるべく新規開設科目を念頭に入れます。放送大学では複数のコースの卒業認定者も多く、２コース卒業の身にて漸く同窓の扉を開いた気がします。

学習カリキュラムの改正に際して、システム更新と学際的改革を実施のなか、学生の立場として後れることなく学びを継続することが求められます。ひとつのコース卒業は通過点です。高等教育機関は幾多と有れ、放送大学は有意義で信頼が置けるところですから、各々の目標に向け卒業を機に広く展開を求めて学びを追求された先輩諸氏も、何時かは再び放送大学を学習の場として位置づけられることでしょう。

この卒業は未経験からの感覚的な学びを継続し得たと理解した上で、不屈の積み重ねが結実を迎える大切なものと信頼を置き懸命に努める決意です。

私にとっての放送大学

米子市　林　千登勢

大学への憧れと、高卒であるという学歴コンプレックスが放送大学への入学の動機でした。

一番下の息子が幼稚園入学と同時に入学。初めは日々の授業についていけるのか、単位が取得できるのか不安だったため、科目履修生という形でスタートしました。

その頃とても関心のあった環境問題に関する授業をとり、何度も何度も教科書を読み返したことを思い出します。単位も取れ少し自信が持てたので、1 年半後に全科履修生となりました。コースは「心理と教育」コースでした。

家事、子育て、仕事に追われる生活の中で

心理学実験の面接授業では、授業時間内にまとめ切れなかったレポートを家に持ち帰り、深夜まで苦労して仕上げたこともありました。家事、子育て、仕事に追われる生活の中で、こうした学びの時間は忙しい中にも夢中になれる自分だけの貴重な時間となりました。

家族の理解と応援もあり 8 年かけて「心理と教育」コースを無事卒業し、今回は「人間と文化」コースで 2 度目の卒業となりました。今では放送大学での学びは私にとって、なくてはならないものになっています。そして日々の生活をとても豊かにしてくれていると思います。美術館や博物館に行っても、山歩きを楽しんでも、いつもの街を歩いても、以前とは違う見方や感じ方で、より深く考察し楽しめるようになりました。

しかし入学動機の一つである学歴コンプレックスは払拭できたか？という問いへの答えは、もう少し時間がかかりそう、といったところでしょうか。ですので、今度は別のコースで、もしくは大学院入学を目指し、これからも学びを楽しみたいと思います。

卒業して思うこと

松江市　　田部知子

放送大学で心理学の勉強しようと思いついたのは、昨今うつ病や、引きこもり、不登校など、心を病む人が多く、また私自身も年を取り老後のことや病気や死への不安などから、なんとか、心を癒すことはできないだろうかと思ったからです。図書館などで心理学関連の本を借りて何冊か読んだりしましたが、きちんと体系的に勉強したいという気持ちが強くなりました。また仕事をしながらなので、放送大学が時間にとらわれなくて良いように思い入学を決めました。

私自身数多く習い事をしてきましたが、いつも途中で挫折することが多くて、放送大学も卒業できるかどうか、半信半疑でした。大学の講義は一流の大学の先生の講義なので、難しくて難解かと思いましたが、しろうとの私でもわかりやすく、楽しく授業が受けられました。中には統計や英語など、忘れてしまった知識を思い起こすのに四苦八苦した科目もありましたが、何とか無事に単位を取ることができました。

学科試験のときは久しぶりの緊張感と終わった後の爽快感が何とも言えませんでした。

面接授業はまるで学生時代

面接授業では、いろんな方と出会い、授業のこと、試験のことなど意見交換ができ、まるで学生時代に戻ったようで、楽しかったです。卒業はできたのですが、心理学については奥が深く、まだまだ知らないことがたくさんあります。何せ年ですので覚えたことから忘れていきます。学んだことを復習したり、いろんな本を読んだりして、これからも自分なりに勉強を続けていきたいです。また勉強したことが何かの役に立てれば嬉しいです。

地区会員の近況報告
（中部地域２）

放送大学で得たもの

雲南市　石飛安弘

島根学習センターまで車で一時間余り、面接授業、単位認定試験等々で通うこと丸十年、なんとか当初の目的を達成し卒業することができました。

そもそも入学の動機は、地域で様々な活動をする中で、識見ある多くの人と出会い自らの知識の狭さ浅さを実感し、入学の決断をいたしました。

長年にわたり社会教育委員を拝命していましたので、専攻は迷わず発達と教育にして、それから学びを深めていきました。

また学びながら実践活動も始め、公立学校の空き教室を活用した取り組みを始めました。

少子高齢化が進行している現代社会、空き教室を活用し高齢者に学びの場を提供しようと取り組んだ活動で、休校日や夜間ではなく児童、教職員がいる時間帯での活動であり当然そこには交流が生まれてきました。

学校側にリスクがあるようでは当然受け入れてはもらえません、その点については校長先生ととことん話し合い、ウインウインの関係を構築することができました。

おかげで全国的に見ても、あまり聞いたことが無い事例であるとの事から、社会教育、生涯学習方面で、地元の教育委員会を始め様々なところから関心を寄せていただき、出雲・松江の教育事務所始め西日本の関係、更には全国からも注目され、実践発表をいたしました。

放送大学で得た識見を活用する場を自ら作って皆さんにも学んでいただくと共に、自らも改めて学び直しました。

卒業後の私

雲南市　難波幸夫

「勉強したい」これが私の一生涯の夢であります。平成28年３月放送大学院を75歳で修了、修士の学位を取得しました。卒業後の私は今も昔も同じで、勉強は楽しみでもあり又苦しみでもありますが頑張ろうと思っています。

現在は、雲南市遺族会、厚生労働大臣業務委託「戦没者遺族相談員」、市老連大東支部若手部、松江木次線バイパス大東地区期成同盟会、認定音楽療法士、しまねハーモニカ会員、県商工連・経営支援エキスパート等にも登録しています。

昨年 11 月には、雲南市藤井副市長以下 11 名で中国撫順戦犯管理所、瀋陽、葫蘆島他と平和交流を致しました。本年はアメリカＯＢＯＮソサエティからフィリピンで戦死した大東町の遺族に日章旗返還があり、副市長等行政の方々と共に返還式を行いました。雲南市戦没者追悼式共催事業、「人間魚雷回天」と題しての平和講演会、戦中戦後の暮し展、戦後 75 年史編纂、ボランティアでは介護福祉施設等ハーモニカ演奏、松江木次線バイパス三工区竣工祝賀会等を行い多忙な日々を送っています。

放送大学で学ばせて頂いたことに深く感謝致している毎日です。放送大学島根同窓会の益々のご発展をお祈り致します。

島根県消費者団体教育機能強化事業

講演と健康チェック

～地産地消と健康寿命を考える集い～

１０月１３日（土）、島根県消費者団体教育機能強化事業の委託を受け、「消費者市民社会

の構築に向けて～地産地消と健康寿命を考えるつどい～」を松江市民活動センター（スティックビル）５階　交流センターで午後１時から開催しました。当日は約６０名が参加されました。

開会にあたり、司会の石川副会長の挨拶の後竹下同窓会会長、佐々学習センター所長が本会開催の目的と意義を述べられました。続いて、つぎの２題の講演が行われました。

講演１．「美味しまね認証」制度
～農林水産物の安全と美味しさのために～

講師は島根県農産園芸課、食の安全推進室からお迎えしました。講演概要は次の通りです。

・「美味しまね認証」を認められた生産者数は平成３０年１０月１０日現在１９３品目３３５生産者である。

・食品を選ぶときに重点的に考えるのは安全性（７７％）、価格（５６％）、おいしさ（３３％）で他に生産期、鮮度、産地、生産者、表示内容、栄養成分、商品名等である。

・通称「美味しまね認証」制度は「安全性が高く、おいしい」島根県産農林水産物を島根県知事が認証する制度である。認証の可否の判断や、認証基準の決定は、学識経験者、消費者代表、食品衛生専門家などで構成する第三者機関が行う。

・美味しまね認証の基準設定品目は、農産物－青果物、穀物、茶、畜産物－鶏卵、肥育牛、生乳、林産物－菌床きのこ、原木きのこ、水産物－いわがき、内水面養殖魚等であるが、品目個々に基準を設定している。例えば「しじみ」はないが、これは基準のチェックが難しいからである。

・美味しまね認証の基準は３階層になっており安全を確保する基準、品質を確保する基準、地域の独自性を確保する基準から成っている。島根県の特徴はこのように多段階になっていることである。

・内容は例えば安全性を確保する基準の生産工程管理基準は、農場の運営体制、出荷物の安全、環境保全、作業者の安全であり、農場の場合は整理整頓し、清潔なほ場や作業場を維持して肥料や農薬は適切に保管され、使用日、量、濃度などの記録があることが必要である。

また、品質を確保する基準として、嗜好性基準（農産物が対象）と安全強化基準（畜産物、林産物、水産物が対象）がある。

・生産者の目から美味しさのアピールポイントを提案することもできる。例えば、「島の香り隠岐藻塩米」は隠岐の豊かな自然環境のイメージと相まって高い評価を得ている。

・美味しまね認証マークは「縁結び」と「水引」をモチーフに消費者に贈り物の気持ちを込めている。

認証された農林水産物に、認証マークを使用することができる。

・工程管理での最終チェックは栽培の工程を一つ一つ確認して記載している。

・美味しまねの実践農場の例として、衛生管理の徹底、作業・管理の記録、記録簿の保管、用具の整理、事故発生時のマニュアル、作業上の注意事項や危険箇所の掲示を挙げられた。

・「美味しまね認証マーク」の他にも「有機ＪＡＳマーク」「島根県推奨エコロジー農産物」

「ふるさと認証食品（E-マーク）」のマークがある。細かく観察すると良い。

講演２．食品表示の見かた

講師は松江保険所衛生指導課からお迎えしました。講演の概要は次の通りです。

・食品表示は、食品を摂取する際の安全性の確保と自主的で合理的な食品の選択の情報源として重要な役割を果たしている。

・「食品表示法」は食品衛生法、ＪＡＳ法、健康増進法の食品表示に係る規定を一元化し、平成２７年４月１日からスタートした。（消費者庁の所管）

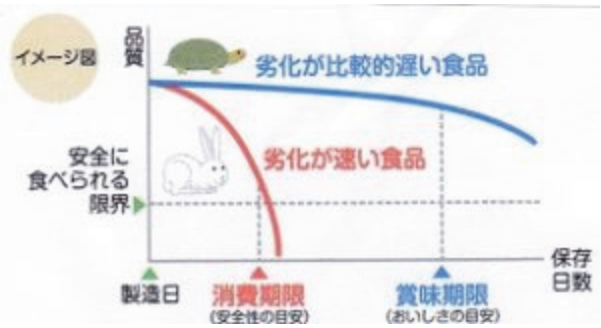
・一般用加工食品の表示について例えば「うなぎのかば焼き」では、原材料名では原産地表示が必要となり、アレルゲン（アレルギーの原因となる物質）の表示方法が変更され、栄養成分表示が義務化された。添加物は原材料名と明確に区分して表示する必要がある。また、製造者と販売者も区別して表示する。

・栄養成分表示については、新たに包装された消費者向けに販売される加工食品および添加物は、原則として栄養成分が必要になった。

・保存方法（保存温度等）と消費（賞味）期限は密接に関係している。保存の方法は食品の特性に従い表示する。期限の表示には図のように「消費期限」と「賞味期限」がある。

・アレルゲンの表示の対象はアレルゲンを含む原材料で

（１）特定原材料７品目（えび、かに、小麦、そば、卵、乳、落花生）



（２）特定原材料に準ずるもの２０品目（あわび、いか、いくら、オレンジ、カシューナッツ、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、ごま、さけ、さば、大豆、鶏肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン）がある。

・アレルゲンの表示は個別表示（個々の原材料の直後に括弧書きする方法）を原則とする。

・特定原材料等と同一のものであると認められる代替標記と拡大表記がある。（例）えび⇒（代替表記）海老、エビ　（拡大表記）えび天ぷら、サクラエビ

・ふくじん漬けと冷凍コロッケについての個別的義務表示例を示された。

・消費者の皆様に対して表示をみて、正しく食品を利用していただきたいと述べられた。

講演終了後に行った健康チェックは参加者の血圧、握力、骨密度、肺活量をそれぞれ測定し、各自の健康状態の確認のため役立てようとするものです。尚、測定にあたっては、肺活量を除き、看護師資格を持つ同窓会会員が支援しました。また同時に開催した

スポーツ吹矢は島根県レクリエーション協会の方のご指導の下、まず、基本動作（1．礼をする　2．構える　3．筒をあげる　4．息をはく　5．息を吸う　6．吹く　7．息を構える　8．礼をする）を教わってから、的に向かって矢を吹いた。スポーツ矢吹が初めての人にとっても大変楽しい経験になったと思います。

会場では「美味しまね認証」取得者である（株）出雲精茶さんのご協力で「お茶の試飲会」が開催され、島根のお茶のおいしさを再認識しました。

第 4 回中部地域会員・学生交流会

海のたたら・山のたたらを訪ねて

～多伎櫻井家たたら製鉄遺跡探訪と交流会～

平成 30 年 11 月 9 日に国指定史跡田儀櫻井家たたら製鉄遺跡を鳥取同窓会副会長夫妻にも参加頂いて訪ねました。

この催しは放送大学島根同窓会第４回中部地域会員・学生交流会として行いました。田儀櫻井家は江戸時代初期に仁多の可部屋櫻井家が現在の出雲市多伎町奥田儀に製鉄業を起こしたといわれています。

当日は多伎文化伝習館に集合して、田儀櫻井家たたら製鉄遺跡保存会の高橋会長さんを始め 5 名のボランティアガイドさんからガイダンス、その後に現地見学で、越堂たたら跡、宮本鍛冶山内遺跡をガイドさんの説明を受けながら見学しました。

特に“宮本鍛冶山内遺跡”は田儀櫻井家が経営したたたら製鉄の中心地ともいえる場所で、この遺跡は狭い峡谷内に、大鍛冶場跡など生産に関連する遺構、田儀櫻井家本宅跡、山内従事者の住居跡など生活に関連する遺構、智光院・金屋子神社・田儀櫻井家墓地・従事者墓地など信仰に関連する遺構が実にコンパクトに一体的に残されていました。

この遺跡は観光地化された場所と違い素朴で当時の様子を想像できる場所で有り、ガイドさんの親切なガイドもあいまって充実した見学でした。

ガイドさんとは宮本鍛冶山内遺跡で別れて、その後、昼食場所の道の駅キララ多伎に移動して食事会を開催しました。食事後にショッピングを楽しみ、田儀櫻井家が経営していた可能性が指摘されている「朝日たたら」の見学に移動しました。

朝日たたらは地下構造が今までの調査例では見られなかった大規模なもので、排水、除湿、保

温について大がかりな気配りがなされている点が特徴といわれている国指定史跡の遺跡です。

出雲市文化財課から提供して頂いた資料を手に保存上建物の中で迫力ある遺構を個々に当時を思い見学しました。たたらの遺跡の見学はここまでで、朝日たたら遺跡の近くに７万年前頃の三瓶山の火山活動でできた言われる埋没林の展示施設を見学しました、見学者は交流会参加者だけでしたので、交流会を展示施設内で行いました。

参加者より充実した内容だった、まだまだ観光地化されていない旧跡があることを実感したなどの感想が寄せられました。今回の交流会を行うに当たり多伎文化伝習館、田儀櫻井家たたら製鉄遺跡保存会の皆様と、朝日たたらの資料と横見埋没林のリーフフレットを提供頂いた出雲市文化財課の皆様並びに詳細な資料を作成して頂いた会長を始め役員の方に厚くお礼申し上げて第４回中部地域会員・学生交流会の報告とします。（記・竹下　隆）

地域貢献活動

しまね企業参加の森づくり

森林保全活動に参加して

松江市　石川直樹

鮮やかな同窓会の幟旗

平成 30 年 11 月 10 日（土曜日）10：00 より松江市東長江町にて、地域貢献活動の取り組みとして「さんいん環境キャンペーン森林保護活動」に島根同窓会として昨年に続き２回目の参加をしました。参加者は同窓会、学友会、学習センターから８名の参加でした。

はじめに今回は９回目となる旨、主催者の山陰中央新報社から参加のお礼と、来る平成 32 年に三瓶山で開催される第 71 回全国植樹祭を盛り上げたいとの挨拶がありました。

続いて、島根県の担当から植樹祭への協力依頼がありました。今回の植樹祭は大田市の三瓶山で開催されるとのことでした。

斜面での植樹風景

子どもを連れて家族ずれも参加

当日は、めったにないような穏やかな天気で汗ばむような陽気でしたが、参加者全員、元気に山に登り、植林をしました。植林場所が昨年より近いこともあり、比較的楽に作業ができま

した。植えた後は土を踏み固めないと、倒れてしまうという指導者の方の指示のもと、しっかりと踏んで植林をしました。

集合写真では、参加者団体では唯一“のぼり旗”と新調した“同窓会旗”を持ってしっかりと放送大学と同窓会をアピールできました。

今回の活動の様子は 11 月 30 日の山陰中央新報社の新聞に掲載(後段に掲載)されました。ぜひご覧ください。

同窓会・センターの幟旗が映える

森林保全活動に参加して

松江市　米山　章

作業開始を待つ会員

平成 30 年 11 月 10 日(土)10 時から松江市東長江共有林組合が所有する「葉子山(はしやま)」において開催された「さんいん環境キャンペー 18」に島根同窓会員の 1 人として初めて参加しました。

この活動は島根県が進める「みーもの森づくり事業」の一環で、緑豊かな森の次世代への継承を目的に 8 年前から実施されています。

協賛各社の関係者や市民ら約 130 名が参加、アカマツやヤマザクラの苗 600 本を植えました。放送大学島根 SC 関係者も 8 名参加しました。

会場となった葉子山は、昭和期には茶畑として使用されていたそうですが、当時の肥沃な畑は連想できませんでした。斜面をクワで掘ろうとすると木々の根が幾重にも重なっていて土がなかなか出て来ません。指導者から指示されたのは幅 30 ㎝、深さ 30 センチの穴でしたが、容易には掘れないのでそこそこの深さで納得しました。根が飛び出さないように土をかけ、最後に倒れないよう地面を固く踏み固めてやっと 1 本植えることができました。

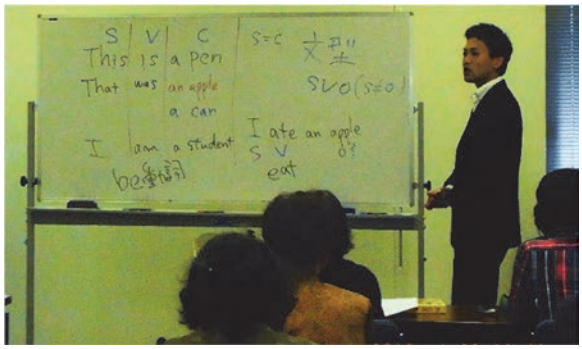
私は趣味で近隣の山の日帰り登山を楽しんでいますが、以前と比べ山全体の緑が変ってきたように思います。原因は山のモンスターとも言われている「くず」の繁殖で、その勢いは凄まじく、大木でも二重三重にぐるぐると巻きついて枯らし、山を荒廃させるのが現状です。

荒れた山もそのむかし、1 本の植樹から始まった人工林だと思うと、今回植えたからといって満足できるものではありません。固い根が張る斜面に手こずりながら、「植えっぱなしにはしないから」とアカマツの幼木に語りかけながらの植樹活動でした。

11 月 30 日付け紙面が当日の模様を報道する地元紙

「英語塾の開講」

客員教員　宮澤　文雄



本年度 4 月より島根学習センターのセミナーとして「英語塾」を開講しました。

このセミナーは、同窓会長の竹下靖彦さんを中心とした同窓生の強い希望により実現しました。皆さんもご存知のとおり、放送大学には大学院が設置されていますが、現状では進学者は少なく、それを阻む壁のひとつに英語の試験があるらしいのです。このことが大学院進学をあきらめる全体の理由のうち、どのくらいの割合を占めているのか分かりませんが、そうした理由であきらめている方が少なからずいらっしゃることは確かです。

こうして竹下さんの熱意と希望者の方々の意欲に口説かれて、すでに別のセミナーを担当しておりましたが、引き受けることにいたしました。

大学院の話から始めたので、このセミナーはよほどレベルが高いのだろう、私には無理だ、どうせついていけない…と思われた方もいらっしゃるかもしれません。「英語塾」は、中学 1 年生レベルの英文法の問題をみんなで一緒に考えながら、ゆっくり学んでいきます。中学 2 年生レベルに入るまでもうしばらく時間がかかりそうです。参加者の皆さんは、いつも熱心に、そして楽しく学習されています。そのおかげで教室はいつも笑いと発見に溢れて楽しいですよ。

本セミナーはまだ歩み始めたばかりですが、その先にあるのは「高い目標への挑戦」です。学びながら手ごたえと自信を持っていただけたら幸いです。今後の予定は、

第 10 回：1 月 17 日（木）11:00～、

第 11 回：2 月 28 日（木）11:00～

以上です。学生、同窓生の方であれば、どなたでも参加できます。お待ちしております。

オープンキャンパス支援（出雲）に取組んで

平成 30 年度第 2 学期 オープンキャンパス（出雲会場）の報告

地域貢献部　安井多喜惠

8 月のオープンキャンパスは開催直前になってやっと 1 人の応募があったという事で開催となりました。それまで、2 回目にはもっと学ぼうという意欲が出るような話がしたいと思っていたのですが、応募が無いという事でちょっとほっとしたような残念なような気持でいました。ところが当日出掛けてみるとなんと 4 名の方が集まっていらっしゃるではありませんか。学びの喜びを伝えなければいけない、大切な放送大学の PR 部として同窓会の必要性を感じながら同窓会の事業についても話しました。前回 2 月の説明会では時期的にも進学や就職の考えや通信教育への関心もあったのか若い方の参加がありましたが、今回は年配の女性が多く、生涯学習としての学びに何かを得たいと模索されているのかなと想像しながら、学ぶ意欲を持っておられることに感動し、そして

それが社会に役立つ生き方なのではと感じました。超高齢社会は今後も留まることなく進む勢いです。人はどうしても老化により心身が衰えますが、人と人が学びや交流によって人としての生き方を最後まで成長させてくれると思わないではいられませんでした。そのためには放送大学事務局のみならず同窓会の活動も欠かせないものとなっています。同窓会組織の灯を消さないよう熱心な役員の方々に協力しなければと思った説明会でした。

連載シリーズ　第5回

“先輩同窓会員”を訪ねて

松江市幸町在住
平塚純一さん

今回は放送大学島根学習センターで数々の歴史を刻まれた平塚純一さんを、松江市内にあるご自身の事務所に竹下会長、安部広報部員が年末の多忙な折に訪問し取材をしました。

平塚さんはセンター開設以来の方で、島根学習センターにおける学士卒業第 1 号、修士修了第 1 号、名誉学生第 1 号とまさにマルチな学生生活を謳歌されて来られた社会人です。

――放送大学をどこで知られましたか？

平塚　法政大学の通信制に在籍していたおり、既に首都圏に開設されていた放送大学を知つたので、早く全国展開になればと思っていた。

――放送大学に入学の動機はなんでしたか？

平塚　1996年春頃に各都道府県にも地域学習センター準備室が開設されることを知ったので、直接松江の準備室に行き、錦織先生に相談し、すでに法政で学士取得していたので、開設された 2 学期から学士入学をした。

――これまでに学部のコース卒業は何回目となりますか？

平塚　第 1 回目は 1998 年 2 学期に「自然の理解コース」に始まり、2018 年 1 学期に「情報コース」を卒業し、7 回目となり名誉学生となった。本来は 6 コースのところ情報コースが追加となり 7 回卒業したことになる。

――平塚さんは修士を修了されていますが、どこの大学でしたか？

平塚　2003 年の 2 学期に、放送大学の学部を 2 回卒業して修士に入学した。

――博士課程も終了されていますが、大学はどこでしたか？

平塚　放送大学では博士課程が無かったので、2007 年 3 月埼玉大学大学院の理工学部後期課程で学術博士です。

――放送大学への学士入学した当時と、現在の大学の印象について違いを感じますか？

平塚　放送大学のメリットは、いつでも自由に学ぶことができ、特にインターネットの普及で一段と学びやすくなっている。最初の頃は視聴するのに SC まで出向いて、テープ貸し出しも 2 本のみであった。今は教材もインターネットで好きな時間で観たり、聞くことができるので、当時からすると通信教育を最大活用して格段に進歩している。それと教材の改定が非常に早い。科目によっては時代に即応して日進月歩で、最近の学説などを取り入れている。スクーリングも各県で土日に集中受講できるのも勤労学生としては嬉しい。ただ欠点として教える側と学ぶ側のコミュニケーションに欠けることがあると思う。特に学士では卒業論文が必須ではないので、一般の大学教育からすると如何なものか。

情報媒体をフルに活用している割には放送大学の授業料は決して安くないように思う。

――時代が違うのでは？

平塚　入学から学士取得までの最低限の学費だけを比較すると、現代でも放送大学の全科より私の母校でもある私立の法政大学の通信教育部

部の方が若干安価となっている。もちろん、通信教育部の場合、最短の4年間で卒業する学生は少ないし、放送大学と異なりスクーリングで上京しなければならないなど、他の費用も多く掛かり、地方学生の場合、放送大学のほうが安価に卒業できる可能性が高く、単純に学費のみで双方を比較するのは困難であると思うが。それでも放送大学の1科目2単位11,000円は決して安価ではないと思う。

さらに大学院の授業料も高く、特にドクターコースは私のように経済的余裕のない者には高額過ぎるように感じる。センターの職員たちがそのことを理解しているか疑問だ。

――所長を始め職員は県や島大から来られており、他の職員はハローワークから雇用していると聞いていますが。

平塚　ハローワークだけからではなく、放送大学の卒業生や同窓会からも雇用枠を拡大すれば、経験者や先輩として学生への対応が出来るのではないか。昭和の末ごろの法政大学ではOBを県によってはカウンセラーとして利用していたと思う。卒業生の人材活用を検討してもよいのではないだろうか。

――放送大学で学んだことが良かったと思えることはなんでしょう？

平塚　知見を広げられたことで職場や社会で生かされていることだと思う。この歳になると若いころに受けた教育は陳腐化しているものも多いので、新しい学説を学ぶことは、働く上でも実生活でも大いに役立つ。とはいえ、最近、学習能力の劣化を感じることも顕著でこの度、情報コースを学んだが若い時のようにスンナリと頭に入らない状況。

肥料藻採集の実態を解明したい

――平塚さんが2006年に書かれた共著の『里湖（さとうみ）モク採り物語』を偶然読みましたが、仮説を裏付ける丁寧なFWで関係者に対する取材を精力的に行ってまとめられており、卒業論文や修士論文に参考になります。書きたいと思われた動機は何ですか？

平塚　宍道湖の湖畔で生まれ、湖で遊んで育ったので原風景を鮮明に記憶している。湖は透明で湖底に散らばるシジミの白い貝殻まではっきり見えた。そして一面に湖底を覆っていた黒緑色をした「沈水植物」いわゆるモバがあった。

成人して仕事の傍ら大根島に住む漁業者と雑談していた時に話がモバ(海草・海藻などの水中の大型植物を意味する方言)について、「私が子どもの頃は島中総出してモバ採りをし、島一面に干し島全体が茶色くなっていた」と話していた。

私が「それは加工用のオゴノリか」と聞いたら、「肥やしモバ」だと話したので、肥料藻採集の実態を解明したいと聞き取り調査と、沿岸市町村の文献収集始めたのがきっかけです。

――仮説としては、中海と宍道湖での肥料藻採集の相違と、特に中海では漁業での生計が主ではなく、肥料藻での生計にウエイトが大きかったのではと仮説を立てたのですか？

平塚　その通り。実は干拓淡水化事業の反対住民運動に関わっていて、漁業の実態調査も行っていた。豊穣の湖と呼ばれる中海の資源利用は一般に魚の宝庫と言われる食料を得るための漁業と並立して、農業のための肥料藻採集業の存在により成立していた。肥料藻採集は単に副業的な漁業収入を超えて、生業として大規模に行われ、湖沿岸の砂質の畑地などの農業経営を支えていたことが、多くの中海の年配の漁業者や沿岸住民からの聞き取り調査や沿岸自治体の統計や郷土資料からも明らかになった。沿岸の湖沼、内海などの生物生産である肥料藻を農業の肥料として大量に利用することで沿岸の集落の農業経営が成立していたことは、陸域から流入

負荷となって水域に集積された栄養塩を濃縮した肥料藻を陸域の農地に施肥するという行為によって水域から陸域への物質循環を確立していたことになる。このシステムは里山から下草を刈って大量に農地に肥料として施肥していた里山経営と同様な人為的な物質循環システムと類似しており、里山の水域バージョンとして里湖と名付けた。その後、この里湖的な水域の利用は各地から実態が明らかにされて、全国的な傾向であったことがわかった。

――藻が繁殖していたのに何故減少、枯渇したのか。その原因は何だと思われましたか？

平塚　理由は幾つかあるが、大きく分けると第１に農業近代化に伴う化学肥料の多用や生活水準の向上に伴う家庭排水の増加などに伴う栄養塩の流入負荷の増大による水質悪化で透明度が低下し、藻の生息域が推進のより浅い所に限定された。第 2 に干拓淡水化事業やその他の開発で藻の生息域である浅瀬そのものの面積が縮小した。第 3 に沿岸の農地に散布された除草剤や農薬の水域への流入、停滞により藻が枯れ死した。中海ではかつて浅瀬には広大なアマモ群落が存在していたが、そして、いまでは多くは干拓地に姿を変えています。戦後の農業近代化による安価な化学肥料の普及は労働集約型の肥料藻の採集と肥料藻の需要を急速に減少させ、今では高齢者が自給地に施肥することも稀になっている。

現在は環境が改善しつつあることで、藻が茂ってきたが、かっての貴重な農業用資源であった藻は迷惑な存在として扱われている。資源も時代とともに移りつつあろう。

――中海・宍道湖の水面下に興味のある方はご一読ください。次に今後、後輩の学生に伝えたいメッセージはありますか？

平塚　日本の高等教育はとどのつまり就職のためとなっているが、そのようなしがらみがなく、自意識、自発的に学んでいる学生を主体に構成されているのは放送大学のような通信教育の特質と言える。従って学生の質、能力でも一般の大学とは違う異質なものだということを、センターは理解していないのではないか。この歳になって何回も卒業するのは何のためだと意識することが大事ではないか。

「卒論」を卒業要件の必須へ

――自覚的に入学している学生がいる中で、私を含めて単位を得るために来ている感がします。加えて、新カリキュラムの導入で再入学者での卒業要件を 30 単位から 16 単位、外国語を 6 単位から 2 単に切り下げて卒業要件を大安売りしたということもあるのでは？

平塚　放送大学がシステム的に単位を安易に与えていることが問題。生涯学習であるならばむしろハードルを高くすることも必要であろう。日本の一般の大学教育である就職重視の教育の弊害のあおりを受けているのではないか。それは今のように就職を前倒し、内定している学生に対して論文を書かない学生を卒業させないでいると、次の年に就職希望者の採用案内が来なくなるため、大学としては就職率を高めるためにそのような学生を無くするようにしなければならないのだと思う。しかし、放送大学の場合は卒業認定のハードルを上げたところで、こうした外部からの制約要因はないのではなかろうか。センターや教員のサポート体制を整えて、卒論を卒業要件の必須とすべきことも検討した方がよいのではないか。

――島根同窓会は年 2 回会報“たたら”を発行していますが、当然読まれていると思います

が、ご批判なり、要望などがあると思いますので、ご忌憚のない辛辣なご意見を頂きたいが？

平塚　毎回読んでいますよ。本当にご苦労様です。放送大学の学生は個人学習主体なので、ゼミもないことから仲間意識や連帯感に欠ける。私も読んではいるが遺憾ながら積極的に係わろうとは思わない。会報に書くことで放送大学が改善されるようなら積極的に書きますが。いうならば唯我独尊で関わっていることだから。

――改善には地道に学生や OB 達の小さな声を集めて運動化することだと思うのですが。

平塚　実は法政大学の通信教育部で島根学生会の会長をしていましたが、学生課の目標として日頃コニュケーションが少ない地方学生の親睦と大学本部との情報交換でした。その折に他県では卒業生の中には単位取得試験の監視員として協力していた人もいた。当時思っていたことは学生の間では学習の進め方とか、レポートの書き方の勉強会の開催を求めるものが多く、彼らが過去に受けてきた学校教育の中での一斉授業と異なる通信教育では、各自の専攻や関心、進歩の度合いも多様化しており、島根のような学生数の少ない地域では通信教育そのもののシステムの普及以外に対応できないことを痛感した。

――他の大学と放送大学の相違点について具体的に感じることがありますか？

平塚　例えばですが、法政大学では学生会の会長職にあった学生が卒業するときは、成績優良者として名誉学生として表彰して記念品まで贈呈してその間の労に報いたことです。放送大学のように成績内容に無関係でただ卒業回数、いわゆる授業料の納付額に過ぎないことでしか学生の貢献度を評価しないことには考え方に差がある。

――ところで同窓会の会報“たたら”の企画についてはどうですか？

平塚　先輩を訪ねては評価できる。古い時代の学生の消息が掲載されていたこと。更に不登校問題なども企画したらどうか。それと在学生、卒業生、同窓会員などの OB、職員、教員を含めたサイエンスカフェのような会談形式で開催したり、ゼミ方式も取組んだらどうか。

――同窓会ではホームページも開設していますが、閲覧されての感想は？

平塚　私も関わっていたことがあるが、頻繁な更新は大変だよ。閲覧者からの反応もないし。

――平塚さんはなんか警戒されていますね。いろいろと提案すると同窓会活動に引き込まれると思っていませんか？

平塚　その通りですよ。今回の取材は私がターゲット候補かなと想像して警戒している。

――最後ですが、これから放送大学はどう変わるべきと思われますか？

平塚　地元の大学とリンクして、社会人教育の牙城として対応すべきと考えている。さらに大学教員と自由に意見交換できる方法なども考えてみたらどうか。

――ご多忙の中取材にご協力頂き有り難うございます。

《　取材を終えて　》

平塚さんは、一見すると人を寄せ付けないような雰囲気からは想像できない程、人当たりが良く穏やかで、話好きな真面目な方で好感が持てました。

私が入学した当時には出会っていましたが、親しく話す機会はありませんでした。しかし近年面接授業でご一緒した時に気軽に声をかけて下さりへーと見直していました。今回の取材で「学ぶことが道楽です」と言われなるほどと思いました。多くの論文を執筆されていて凄い方だと改めて実感しました。（安部）

私の社会貢献活動　①

「ニュー福祉スポレク（車椅子レクダンス)を楽しむ」

米子市　金田文子

今夏、「本当に素晴らしい笑顔」に私は出会いました。それは８月のある日、出雲某施設において開催された車椅子ダンスに参加した時のことであります。

参加者は入所の方々が中心、集合時は物静かで会話も余りない雰囲気でしたが、曲が始まりスタッフも入ってダンス開始、でもまだ「静か！」。しかし時間と共に曲も進み、パートナーチェンジが繰り返されて行くほどにハプニングも程よく起こり、会場全体が一体になり、笑顔と笑い声で曲が飛んでしまいそうでした。

「曲が終了しても手を放すことも忘れる程踊り切った満足感」。これが素晴らしい笑顔につながっていると感じました。それでは車椅子ダンスについてのご紹介は、認定ＮＰＯ法人日本車椅子レクダンス協会黒木実馬理事長さんのご説明では以下の通りでした。

１、初めに（車椅子レクダンスの概要）：車椅子レクダンスは 1995 年北海道恵庭市で生まれました。活動を通じて自らも楽しくなるボランティア活動です。

２、誕生の経過：その頃、海外から日本に紹介された車椅子ダンスが競技会中心だったため、パーティダンスとして車椅子社交ダンスを考案しました。その後、愛好者の幅を増やすために、社交ダンス以外にフォークダンス、レクリエーションダンスを取り入れました。

３、活動の概要：目的は、身体が不自由な人も高齢者も、健常者と同じようにダンスが楽しめる社会環境を実現し、誰でも気軽に踊れるようになることです。健常者が簡単にできることでも、身体が不自由だと、①種目がない、②指導者がいない、③活動する場所がない、というバリアがあります。

これを取り除くための一つの手段が「車椅子レクダンス」という活動です。各地に活動する団体（支部）を作り、仲間を集め、指導力を身に着け、楽しくダンスができるようになります。現在施設への訪問が主な活動です。

４、ルール：ペアを組み、手をつなぎ、音楽に合わせてお互いにアイコンタクトしながら、楽しく踊ります。種目は社交ダンス（パーティーダンス）、フオークダンス、レクダンスです。立って踊るのが困難な人は車椅子を利用しますが、立って踊れれば車椅子の使用にはこだわりません。

また車椅子を使用しないで、固定の椅子に座ったままでも踊れます。一般の社交ダンスのように男女が組むというルールはありません。誰とでも組んで楽しみます。またフオークダンスとレクダンスは、次々に組む相手を変えながら踊ります。

５、用具：車椅子あるいは普通の椅子。腕に力が入らないような人には、車椅子に取り付ける補助具を使用する場合があります。特にこれを付けると、腕に力が入らない人も、ちょっと難しい社交ダンスを比較的簡単に踊れます。

音楽の三要素によるイメージをとらえた表現能力の向上、踊り合うことによる仲間とのコミュニケーション力向上など自己表現能力を高め、より多くの喜びや楽しさを感じさせる活動と思います。

振り付けは全国共通（講習あり）でどこでも誰とでも踊れます。アイデァー次第で私は家庭内、幼児関係、老若男女、あらゆる現場に於いて利用できる活動と思いました。

私の書棚から⑤

松江市　安部保江

・本の題名　「みなんごあんの春」
・著　　者　足 立 悦 郎
・出 版 社　新日本海新聞社

この物語は、鳥取県出身の有名な俳人尾崎放哉の半生を著したものである。

作者は、この作品で「第 5 回とっとり文学賞」最優秀文学賞を受けられた鳥取県出身の足立悦男島根大学名誉教授であり、当センターの前センター長である。放哉を知らない人も、〝咳をしても一人”　と聞けば、ああ…あの、と思う。

作者は、放哉に絶大なる愛情をもって、この本を書き著されただろうと、感じながら楽しく温かく読み進むことが出来た。

放哉は、かの有名な天下の帝国大学を出て、有名な会社の重席にいながら、一方で俳句に親しみ定型句に飽き足らなさを感じ、種田山頭火などの自由律俳句にのめり込んでいく。

31 歳の時、何もかも捨てて裸一貫、京都の一燈園の門を叩き、一燈園での厳しい修行の中で、そう簡単に自由律俳句は生まれてこなかった。その中にあって、どの様な日々を過ごし、尾崎放哉の名を残して行ったか…。

これから読む人のためにこれくらいで止めようと思うが、作者をある程度存じ上げている私は、私自身を生意気だと思いつつも、放哉を通して作者の生き方の哲学を垣間見た気がして、私の心にじんとしみいるものを感じた。

同窓会に“期待”する④

～学 習センターから～

―　目指すは拡大･拡充を！　―

島根学習センター事務長 道前 緑

島根学習センター（島根ＳＣ）事務長として４学期目を迎え、ようやく大学の仕組み・制度や学期の動きに馴染んできました。

同窓会の担当は事務長の私です

同窓会についても、最初、様子が分からず、事務所に頻繁に顔を見せ、印刷や発送に精出し、色々な企画をして熱心に動いていて、通常の同窓会と違うなぁと眺めていました。

ところが、実際にその活動に参加し、会員と触れ合う機会を重ねるうちに、その存在･活動が、放送大学及び島根ＳＣにとって、重要な価値を持つことを実感しています。

同窓会の多岐にわたる活動ぶりに瞠目！

通信制大学である放送大学で、学生同士の繋がり、顔と顔の関係をつくることは、なかなか難しいことです。しかし、そうした関係ができ、仲間意識が持てると、勉強を続けていくのもより楽しくなるようです。その面で、サークル等学生集団の結成が少ない島根ＳＣにとって、同窓会はとても有効な存在であり、重要な働きをしています。

また、放送大学は卒業生の再入学が多く、同窓会員の多くは在学生でもあるため同窓会と在学生の距離がとても近く、活動が学生活動の面も持つためか、自由で幅広いようです。動かす体制が大きく影響すると思いますが、島根同窓会は役員体制・組織をしっかり固め、東西での会員交流・地域集会、植林ボランティアや消費者教育集

会といった地域貢献・社会活動、また今年は英語塾の開始や、鳥取同窓会との交流を行うなど、本当に多様な活動を展開しており、その充実ぶりに目を瞠ります。それら活動に参加する会員の繋がりはとても強いです。

大きな課題もあります

しかしながら、参加メンバーの顔ぶれをみると、案外と狭く、固定化しているように思われます。同窓会の良さ・味わいが分かるのは、確かにある程度年齢を重ねてからでしょうから、役員の主体は年配層でもよいでしょうが、中に次の核となる若年層を配し、次世代継承をにらんだ体制づくりも必要です。総会時の役員の顔ぶれを見ると、若年層も取り込んでいますが、ごく少数です。

それ以上に、一般会員はもっと少数です。最大課題はこれからもっと会員数を拡大すること、また若年層の参加も得て、さらなる活動の拡大・拡充を図ることだと思います。

ネット化に対抗できるのは同窓会です

今後、放送大学のネット化が進むと、仲間づくりはもっと難しくなるかもしれません。それに対抗できるのは同窓会だと思います。もっともっと大勢の卒業生・在学生の皆さんに、同窓会活動での社会勉強・人事交流を楽しんでいただきたいというのが、私の夢であり、大きな願いです。

～同窓会からのお知らせ～

新会員のご紹介

○平成30年度1学期卒業

- 社会と産業コース　**日下祐志さん**
- 心理と教育コース　**田部知子さん**
- 社会と産業コース　**林　武史さん**

◆同窓会活動日誌◆

（2018年7月～12月）

7月度

10 日（火）　会報“たたら”11 号入稿
12 日（木）　第 4 回英語塾開催
12 日（木）　島根県消費者センター打合せ
17 日（火）　島根県農産園芸課打合せ
18 日（水）　松江保健所打合せ
21 日（土）　会報“たたら”11 号発送準備
23 日（月）　会報“たたら”11 号納品
24 日（火）　会報“たたら”11 号発送

8月度

03 日（金）　第 3 回地域貢献部会
06 日（月）　松江保健所打合せ
09 日（木）　第 5 回英語塾開催
18 日（日）　第 2 回(29)役員会開催
18 日（土）　第 1 回(20)広報部会
18 日（土）　2018 年納涼会
19 日（日）　入学説明会（松江）
24 日（金）　第 4 回地域貢献部会
29 日（水）　学位記授与式打合せ
29 日（水）　島根県消費者センター

9月度

02 日（木）　入学説明会（出雲）
09 日（日）　入学説明会（松江）
16 日（日）　行事参加案内発送作業
20 日（木）　県レクリェーション協会へ
21 日（金）　出雲精茶打合せ
22 日（土）　医療機器業者打合せ
27 日（木）　第 6 回英語塾開催

30 日(日)　1 学期学位記授与式
30 日(日)　1 学期卒業を祝う会開催
30 日(日)　2 学期入学者のつどい

１０月度

11 日(木)　公開講演会資料袋詰め
13 日(土)　地産地消と健康寿命の集い
18 日(木)　講師へのお礼活動
19 日(金)　第 5 回地域貢献部会
25 日(木)　第 7 回英語塾開催

１１月度

09 日(金)　第 4 回中部地域会員交流会
10 日(土)　森林保全植林ボランティア
29 日(木)　第 8 回英語塾開催

１２月度

01 日(土)　会報“たたら”取材
08 日(土)　第 2 回(21)広報部会
08 日(土)　第 3 回(30)役員会開催
08 日(土)　2018 年度忘年会
15 日(土)　英語小説を愉しむ・英語塾
16 日(日)　入学説明会(出雲)
20 日(木)　第 9 回英語塾開催
22 日(土)　入学説明会(松江)

☞☞当面の行事案内☜☜

平成３０年度卒業研究発表会・公開講座開催のご案内

日　時　平成 31 年２月９日（土）１３：３０～１６：００
会　場　島根学習センター３階「第一講義室」
対　象　平成 30 年度卒業論文を完成された学生
※多数のご参加をお願いします

島根同窓会“第７回通常総会”開催のご案内

日　時　２０１９年４月２０日（土）１３：００～１７：００
会　場　島根学習センター４階「第二講義室」（予定）
議　事　①2018 年度事業報告、②2018 年度会計・監査報告、③2019 年度事業計画案、④2019 年度予算案、⑤第４期役員改選、⑥その他
講　演　現在講師依頼中

編集後記

今年の気候はちょっと変です。8 月は 35℃を超える猛暑日が続いたかと思えば、9 月は例年より気温が低くなり、秋が早いのかと思えば、10 月になって再び暖かくなり、12 月に入っても 20℃を超える日も。これは、やはり地球温暖化による影響なのかもしれません。

国連は地球温暖化による平均気温の上昇を 1.5℃までに抑えることを死守すべき目標と提言しています。そうしなければ、地球の環境は劇的に変わってしまうようです。この目標を達成するためにも、今の大量のエネルギーを使う生活スタイルを変える時期を迎えているのかもしれません。とりあえずは、みなさんが身近でできることから始めてみませんか。（典）